

対応状況の報告書、立入検査を行うことになっております。また、もしそれでも改善されなかった場合には、サービス対価の減額ですとか支払いの停止、維持企業及び運営企業の変更または事業契約の解除というふうなことができるようになっております。これら厳しい取り決めの中で事業を行っているというふうなことです。

特に事業者等の責めに帰すべき事由によって食中毒等が発生した場合には、維持管理業務または運營業務の遂行ができない期間を生じた場合については、これは市はその事業者に対して損害賠償請求を行うことができるというふうなことで、それぞれほかの市の事案なども出ているようです。

○梅津善之委員長 4番、鈴木 裕委員。

○4番 鈴木 裕委員 大変ご丁寧にありがとうございました。ほぼ契約上はきちんとなされているから心配ないようなご答弁をいただきました。それと同時に、モニタリングということで、建設中もそうですが、運営しているときも常にモニタリングして、不具合はないか、運営まズくないかということに気を配られているということがよくわかったところでございます。

最後の質問ですが、給食をつくる側の責任とか、その問題は置いて、例えば今回のコロナウイルスで給食が提供できないという事実に鑑みますと、要はそこで働いているパートの社員の方が働く機会が失われるのでないかというふうな問題があるわけです。長井市と共同事業体との間については年間幾らでという契約をしていますから、企業体のほうは何ら金銭的に被害をこうむるわけではないとは思いますが、そこで働く従業員の方が給食をつくる必要がなくなったがゆえに働く機会が失われるというふうなことも今回現実として出てきていますので、そういう意味合いも込めてちょっと最後は質問させていただいたところでございます。

私の質問は、PFI、共同調理場の運営につ

いて、令和2年度の建設もそうでありますが、3年度からスムーズにスタートからうまくいくことを願っての質問でありました。以上で終わります。

## 鈴木富美子委員の総括質疑

○梅津善之委員長 次に、順位3番、議席番号10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 それでは、通告に従いまして質問させていただきます。若干会場暖かいので、皆さん目をぱっちりあいていただきたいと思います。

私が質問させていただくのは、ミニデイサービスのほかに2項目ありますので、よろしくお願いたします。

ミニデイサービス事業が始まってから約26年になります。私の両親も設立に向けて敬老会の皆さんと話し合っていたような記憶がありますが、私たちの地区には設立しませんでした。当時は20年、30年先を見据えたすばらしい事業を始めたのだと私は思いました。しかし、26年という月日を支えてきた皆さんが今は支えていただく年齢になってきたということが現状でありまして、この事業を今までどおりでいいのか、改善していくべきなのか、いろいろなことを考えていく時期なのではないかと思っ、質問させていただきたいと思います。

年1回開催の西根地区の文化祭にお邪魔したときにいつも気づくことは、展示の中に必ずミニデイサービスに参加しておられる方々のすばらしい作品や写真の様子を目にいたします。皆さんの顔はとっても生き生きとしておられ、楽しい雰囲気が伝わってきます。昔のようにお茶飲みを余り近所でしなくなってからは、特にミニデイサービスの役割は大きなものと考えられ

ます。

初めに、今現在、ミニデイサービスは市内で32カ所で行っているとお聞きしていますが、今の現状を健康課長にお聞きしたいと思います。

○梅津善之委員長 小林克人健康課長。

○小林克人健康課長 ミニデイサービス事業でございますが、老人保健福祉計画に基づきまして、高齢者の生きがいと健康づくり推進事業として、住みなれた地域の中で交流の場を設け、閉じこもりの予防と健康の維持を図り、あわせてこれにかかわる協力員などの組織化による地域ボランティア活動の推進を図ることを目的として、平成6年度から実施しております。当初は2カ所からのスタートでしたが、平成30年度は32団体、1,444人の会員登録がございまして、延べ4万5,766人の参加でございました。地域内で自発的に行われる事業でございまして、基本的に毎週1回、曜日を決めて活動をしていただいております。

会場でございますが、地域の自治公民館等でございます。おおむね10時から午後2時ごろまでの4時間ほどの活動でございまして、健康相談、さまざまな講師を招いての講話、ウォーキングや健康体操、茶話会など、多彩な催しを実施していただいております。また、年に数回、研修旅行などを実施している団体もございまして。

新年度につきましても継続してミニデイサービス事業を推進し、運動、栄養、口の健康管理、認知症予防等の健康教育を実施し、いつまでも健やかな生活を送るための取り組みを推進してまいります。

鈴木委員おっしゃるとおり、事業開始から26年を迎えまして、今後、高齢化が加速する中、自主的に運営するミニデイサービスのようなボランティア組織が地域の中でさらに重要になると考えてございます。今後は、運営組織がない地域におきまして、ミニデイサービス事業へ参

加できるような事業展開、支援を検討してまいりたいと考えてございます。

○梅津善之委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 本当に活発になされていることが、今、健康課長のお話でわかりました。本当に皆さん一生懸命なされていて、支えていく人たち、本当に一生懸命毎回なされていることは私も感じております。

地域によって活動内容は異なると思いますが、例えば高齢化によりまして、公民館まで来れなくなったとかいう人もいると思いますが、そのような地域で支えていく中で、皆さんから悩み事などは健康課長のほうでお聞きしているでしょうか、お伺いいたします。

○梅津善之委員長 小林克人健康課長。

○小林克人健康課長 ミニデイサービスでございますが、65歳以上の介護を要しない高齢者の健康維持、社会参加、交流の場として、地域の状況に応じまして、協力員の皆様が自主的に活動計画を立ててさまざまな事業を展開していただいております。

参加者からのご感想でございますが、心も体も爽やかになり、とても楽しい。お茶飲み友達が新しくできた。家でも運動するようになった等のお声をいただいております。ミニデイサービスが順調に運営されているものと認識しております。

一方、協力員との情報交換会の中におきまして、新規会員、若い方が加入してこない。ずっと同じメンバーである。協力員や役員の後継者がいないというお声もいただいております。課題も見えてきたところでございます。

工夫して取り組んでおられるミニデイサービスにおかれましては、地区役員が必ず協力員になるよう引き継がれておったり、近所の会員や親しい方が声かけをして勧誘していただいたり、チラシを作成して会員募集の回覧を行っているところもございますので、そういったところを

参考にしながら、市としても対応策を検討してまいりたいというふうに思います。

○梅津善之委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 ありがとうございますました。

65歳以上の健康な方とおっしゃったとしても、やはり足の悪い方もかなりいらっしゃいまして、苦慮しているところがあると私は思っております。

例えば課長からお話がありましたので、3番目の質問については、これからミニデイサービスを存続していくためには、手段などはどのように考えているかというのをお聞きしたいのですが、改めてお聞きしてもよろしいですか。課長、お願いします。

○梅津善之委員長 小林克人健康課長。

○小林克人健康課長 ただいまの質問と重複、若干しますが、ちょっと経過等をお話しさせていただきたいというふうに思います。

鈴木委員おっしゃいますとおり、ミニデイサービス事業の存続につきましては、大きな課題というふうに捉えてございます。現在、活動団体、32団体でございますが、この事業が始まって以来、幾つかの団体が活動を休止しております。理由をお聞きしたところ、会員全体の高齢化により参加者が減少しまして、事業として成り立たなくなったこと、会の運営を担う人材が育たなかったということでございます。新しい会員が入り、会の活動が活発になりますと、人材の交流もスムーズに進みますが、新しい会員が入ってこない現状では、世代交代が進まないため、設立から頑張ってこられた役員の方々が引退するタイミングで活動休止になってしまうということでございます。

これらを防ぐためには、これまで参加してこなかった地域の方々への参加を促すことが重要になりますので、会員の皆様から周囲の方々へのお声かけを続けていただくとともに、各地区

に参加を呼びかけるお知らせを回覧していただいたり、また、市報やおらんだラジオ等での情報提供の回数をふやしたり、また、各地区コミュニティセンターとの連携のほうを模索しながら、市といたしましても対応を講じてまいりたいというふうに考えてございます。

○梅津善之委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 ありがとうございますました。大切な事業でありまして、これは継続していかなければいけないとは思いますが、やっぱり大きな課題があるなということを、今、健康課長からお聞きしたところです。

来年度の予算の中の介護保険特別会計、一般介護予防事業費の中にミニデイサービスの事業委託料として808万9,000円の予算が計上されておりますが、単純に32カ所ですと、1カ所につき25万円ぐらい、1カ月ごとに活動するとすれば月2万円ぐらいとなっておりますが、例えばこれから車を手配したりすれば、この予算で妥当なのかどうか、健康課長にお伺いいたします。

○梅津善之委員長 小林克人健康課長。

○小林克人健康課長 この委託料808万9,000円でございますが、内訳といたしまして、ミニデイサービス32団体への委託料608万円のほかに、月1回、市でミニデイサービスさんのほうへ出向きまして実施してございます健康相談事業の委託料も含めてございます。

それで、ご質問のミニデイサービス各団体への委託料につきましては、会場借り上げ料、暖房費、電気代、講師謝礼等として、1団体19万円を基本といたしまして、開催日数等を勘案して決めておるところでございます。

なお、弁当代や研修先の入館料等につきましては、参加者の実費負担をお願いしているところでございます。

この財源につきましては、ちょっと説明させていただきたいのですが、介護保険特別会計の歳

入といたしまして、支払基金交付金、これは40歳から64歳までの第2号被保険者の保険料でございますが、27%、介護保険料が23%、これに加えて、国庫支出金25%、県支出金12.5%、一般会計繰入金が12.5%ということで計上しているところでございます。

○梅津善之委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 ありがとうございます。いろんなご苦労なされて予算を組まれているということがわかりました。

それで、やはりお金の問題ではないとは思いますが、いろんな工夫をして、これからミニデイサービスを継続していくことも必要かなと思っておりますので、これから質問させていただきますことにあわせて、後でお願いしたいと思えます。

昨年の11月ですが、支え合いの地域づくりフォーラムということで福祉あんしん課のほうで開催されたフォーラムですが、その中で、長井駅前通り推進会議と上伊佐沢福祉活動推進会議の代表の方より事例発表がありました。やっぱり皆様が集まっているいろんな楽しいことをなさっているとのことでしたが、どちらも素晴らしい活動をなさっておられました。私たちの地域でも、小さい集まりだったので、できるのではないかなどと考えましたが、このフォーラムを開催した意図について、福祉あんしん課長にお聞きしたいと思えます。

○梅津善之委員長 梅津義徳福祉あんしん課長。

○梅津義徳福祉あんしん課長 お答えをいたします。

高齢になっても住みなれた地域で暮らすためには、公的な医療や介護のサービスだけではなく、地域の支え合いによる介護予防や生活支援サービスが今後必要になると考えております。こういった取り組みについて、県内、全国的にも成功事例が多く見られておまして、委員からご紹介のあったとおり、長井市内でも取り組

まれている団体がございます。

ご質問の支え合いの地域づくりフォーラム開催の意図でございますが、住民主体の支え合いの地域づくりの必要性を周知しながら、支え合いの地域づくりを広く市全体に広めていくための第一歩として開催をさせていただきました。そのため、地域での助け合い活動の取り組みを支援しているさわやか福祉財団から講師をお呼びし、支え合い活動の必要性や先進的な取り組み事例を紹介していただき、また、先ほどご紹介あった団体の方からは活動の様子や立ち上げの思いなどを紹介していただきました。

その後の次のステップとして、12月から2月にかけて、支え合いの地域づくり担い手養成講座を開催させていただきました。ご案内を全戸配布し、結果として支え合いの地域づくりフォーラムに参加された方や関心のある方37名にご参加をいただきました。その講座では、地域ニーズの把握の仕方や立ち上げのための計画づくりなどを学んでいただきました。我々の予想以上に興味、関心のある方が多くいらっしゃいましたので、今後、実際の活動につながるよう、引き続き支援していきたいと考えております。

また、今後も支え合いの地域づくりについて周知をしながら、コミュニティセンターへの働きかけや関心のある方の掘り起こし、支援などを継続したいと考えているところで。

○梅津善之委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 私も事例発表をお聞きしましたら、本当に昔のお茶飲みに戻ったのかなと思うような地域の支え合いだったりで、課長おっしゃるように、いろんな方に話を聞いていただいたということは一歩進んだのではないかなと思っております。

先ほどミニデイサービスの話をさせていただきましたが、ミニデイサービスと支え合いの地域づくりとはどのように関連づけていくのか、その辺について、福祉あんしん課長にお聞きし

たいと思います。

○梅津善之委員長 梅津義徳福祉あんしん課長。

○梅津義徳福祉あんしん課長 お答えをいたします。

長井市の高齢者の居場所や健康づくりのための事業を時代に先駆けてミニデイサービスという名称でこれまで行っていただき、ミニデイサービスもつまりは地域の支え合いの事業の一つという認識を持っております。

先ほど健康課長から答弁ありましたように、ミニデイサービスや健康づくりや生きがいづくりを目的として、各団体ごとに工夫を凝らして取り組んでいただいております。それらの取り組みは大変重要なことですが、今後の高齢化などを考えた場合に、例えば買い物や見守りなどのいろいろな生活面での支援が必要になり、地域で生活するためにお互いが支えるということの必要性から、支え合いの地域づくり事業を推進したいというふうに考えております。

ミニデイサービスが現在ある地区にとっては、ミニデイサービスに大きな役割を果たしていただいておりますので、今後も継続をしていただきながら、必要な生活支援については、ミニデイサービスでも、またはミニデイサービス以外の例えばコミュニティセンターなどが中心になって、住民主体の支え合いの地域づくりとして住民の皆さんに取り組んでいただければと考えているところでございます。

○梅津善之委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 ぜひ長井市内に広がっていけばいいなと思います。

例えばそうやって小さいながらにあっちとこちとかでいろいろできた場合ですが、市として予算的に補助していく考えはあるのかどうか、福祉あんしん課長にお聞きいたします。

○梅津善之委員長 梅津義徳福祉あんしん課長。

○梅津義徳福祉あんしん課長 お答えをいたします。

先ほど健康課長から特別会計予算の説明がございましたが、その中で、運営のお手伝いができる金額を準備させていただいているところです。

○梅津善之委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 ぜひ、少しずつですが、やはり支えていくための手だてとして、両方も生きるような形で進めていただきたいと思います。

最後に市長にお聞きいたしますが、ミニデイサービスや支え合いの地域づくりといった本当に高齢者をサポートしていく活動が求められると思います。地域との連携が今まで以上に必要になると思いますが、市長のお考えをお聞きしたいと思います。

○梅津善之委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 先ほど来、健康課長あるいは福祉あんしん課長から話がありましたように、これから、高齢者、どんどんふえてまいります。昨年の4月1日で高齢化率が34.6ということなんですが、今後10年ぐらいまでは上がり続けるのかなというふうに思っております。そんな中で、やっぱり課題は、鈴木委員がおっしゃったように、お年寄りの方の居場所づくりとか、あるいは生きがい、社会参加の機会をどうつくるか、また、生活面では買い物とか、あるいは認知症に近づいている方などの見守りなどの課題もあるかと思います。

それで、先ほど委員からもありましたけども、ミニデイサービス、32カ所、今やっていると。それで、登録されている方が1,444名ということなんですが、去年の敬老会の際のデータですと、ざっと65歳以上の方が9,000名ぐらいいらっしゃるわけですね。75歳以上、数えて76歳以上ですか、その方だけでも約5,000名いらっしゃるので、ミニデイサービス登録されている方は1,444名と、登録だけでも3分の1満たないということでありま

して、したがって、先ほど来ありましたように、支え合いの地域づくりのフォーラムは私も参加させてもらって、全国で、非常に地域ぐるみで、そういった活動をしようという意識の高い人たちがたくさんいらっしゃるって、仲間とそういったグループをつくっているいろいろなボランティア活動なさっていると。長井でも栄町であったり、あるいは伊佐沢などでもそういう動きがあるんですけれども、一方で、委員おっしゃるように、全体として参加したい人、あるいは何らかの形で居場所をつくるというのは行政としてやっぱりしっかりと対応していきたいと思っております。ただし、健康課や福祉あんしん課だけではできない。ミニデイサービスも多分これ以上後継者不足などでふえないだろうと。やっぱりそういったいろいろな支え合いの地域づくりに携わってくださるグループ、小グループというのも、これはこれでありがたいと。ただ、それでも多分、何らかの形でミニデイサービス参加したいんだけど、そこに参加できない、あるいは地域にそういったものがないという方たちもたくさん出てしまっている状況だと思っております。

したがって、今後は、従来の今まで頑張ってきた健康課やら福祉あんしん課、またそれぞれのNPOとか団体の方々に加えて、社会福祉協議会と、あとはやっぱり一番はコミュニティセンターなどもかかわって、どういうふうにして全ての方々が何らかの形でそういった、大きい組織でも、小グループでも、お茶飲みだけでも参加したいといったときに参加できるような仕組みをどうつくっていくかということが大切だと思っております。したがって、今後は、福祉あんしん課あるいは健康課に加えて、コミュニティセンターですから、市でいえば地域づくり推進課、あとはやっぱり歩けなくなってしまうともうどうしようもないわけですので、教育委員会の生涯スポーツ課、そしてまた、いろんな楽しみ方、人生を豊かにするには文化生

涯学習課など、とにかくそういう意味では市ぐるみなんですね。そんな体制をやっぱりつくっていくように、なかなか一朝一夕ではできませんけども、いろいろ皆様からご協力あるいはご提言いただきながら、こういったことを進めていきたいなという認識でおります。

○梅津善之委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 市長が今おっしゃったように、65歳以上といえば本当、人ごとではないなと思っているところです。子育てについてはもうずっとつながっていますが、やっぱり高齢化社会に対してはまだまだ弱いところがあるのではないかと思っております。新庁舎になったら課も近くなるので、ぜひ横のつながりを、横と縦軸をしっかりとさせていただいて、私たちもまだまだ本当は支えていく年齢で頑張りたいと思いますので、ぜひ市長にも力を入れていただきたいと思っております。ありがとうございます。

次の2番目に入らせていただきます。

オリンピック・パラリンピックがいよいよ始まるわけですが、早く新型コロナウイルスが終息に向かわないとちょっと不安なところがあります。私はずっとオリパラについて質問させていただきました。これで最後の質問かなと思いつつながら質問をさせていただきますが、大会が成功することをお祈りして、ホストタウンとしての長井市の今までの交流の成果と選手団の活躍に期待したいと思っております。

タンザニア連合共和国の選手団はマラソンランナーでありまして、練習には当然置賜生涯プラザ付近での練習になると思っております。ことしは暖冬、少雪により、運動公園の植物や芝に影響があったのではないかと思っております。

初めに、生涯学習プラザ運動公園施設管理運営事業の中の緑地維持管理業務委託をしているわけですが、昨年の夏、猛暑に見舞われました。それによって特に苦労したことは何でしょうか。生涯スポーツ課長にお聞きしたいと思います。

○梅津善之委員長 金田文明生涯スポーツ課長。

○金田文明生涯スポーツ課長 お答えいたします。

昨年の夏、苦勞したということですが、昨年の夏も暑い日が続きました。また、7月、8月の2カ月間の雨が降った日ですが、私の記憶では五、六日だったのかと記憶しています。また、まとまった雨も降っていません。このような天候によりまして、芝への散水をほぼ毎日行い、芝の管理を行ってきたところでした。

○梅津善之委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 いろんなご苦勞があるんですが、予算の中に1,500万円ほど緑地維持管理業務委託の予算、上がっているわけですが、今冬の少雪を踏まえて積算をしたと思いますが、詳しい内容等について、スポーツ課長にお聞きしたいと思います。

○梅津善之委員長 金田文明生涯スポーツ課長。

○金田文明生涯スポーツ課長 まず初めに、今冬の少雪を踏まえて令和2年度の予算を積算したと思いますがということですが、少雪とか大雪に関係なく、例年どおりの積算方法で積算しておるところです。

あと緑地維持管理業務委託料の概要ですが、陸上競技場部分は芝生の維持管理でありまして、7,420平方メートル、プラザ運動公園多目的広場の芝生の維持管理及び樹木管理についてですが、2万8,480平方メートルであります。

芝生の管理については、芝刈り込み、張りかえ、施肥、殺虫剤、殺菌剤、除草剤の散布、目土散布、散水工、人力除草等で管理を行っております。また、樹木の管理につきましては、高木、低木の施肥、病虫害防除、高木、低木施肥、雪囲い撤去、枝葉等の処分、植栽かん水、人力での除草等であります。このような内容が委託業務の概要でございます。

○梅津善之委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 やっぱ芝生の管理

は大変ですね。それは仕方ないと思いますが、樹木の管理の中で、枝の剪定とか、枯れ葉落ちたとか、そういったのは毎年行うんでしょうか。

○梅津善之委員長 金田文明生涯スポーツ課長。

○金田文明生涯スポーツ課長 状況を見まして行っていただいております。

また、枯れ葉とかの処理等も委託料に含んでおるところです。

○梅津善之委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 ことは本当さっき言いました少雪でしたので、結構運動公園も皆さん遊んだりしていたのではないかなと思いますが、冬期間の陸上競技場の使用はあったのかどうか、生涯スポーツ課長にお聞きいたします。

○梅津善之委員長 金田文明生涯スポーツ課長。

○金田文明生涯スポーツ課長 今回の暖冬、雪不足によりまして、陸上競技場を団体、個人で利用する人はおりました。昨年の12月から2月までの利用者数ですが、平日については個人での利用が週3人ほどおりました。また、土曜、日曜になりますと、市内及び米沢の高等学校の生徒やスポーツ少年団など、平均ですが、1日30名ほどの利用があり、この12月から2月までの3カ月間で約800人の利用があったところでした。

○梅津善之委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 やはり陸上競技場があると、雪もないことから使用するということはすばらしいことだなと思います。夜間も使用したのでしょうか。生涯スポーツ課長にお聞きします。

○梅津善之委員長 金田文明生涯スポーツ課長。

○金田文明生涯スポーツ課長 お答えいたします。12月から3月の冬期間についてですが、照明の点灯は行っていませんので、利用はございません。

○梅津善之委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 ありがとうございます。

それでは、オリパラのほうに入りたいんですが、タンザニア連合共和国の選手団の合宿や練習などで陸上競技場を使用する予定はございますか。生涯スポーツ課長にお聞きいたします。

○梅津善之委員長 金田文明生涯スポーツ課長。

○金田文明生涯スポーツ課長 お答えいたします。

4月2日から12日までの間、タンザニア連合共和国よりタンザニアのオリンピック委員会会長を初め11名の方が長井市に来市される予定であります。うち3名のオリンピック候補選手もお見えになりますので、この3名の方が陸上競技場で練習を行う予定であります。

○梅津善之委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 そうしますと、この間、文教常任委員会で拝見いたしました。合宿場というか、プラザの施設は利用になる予定はありますでしょうか。お泊まりはどの辺になるのか、生涯スポーツ課長にお聞きします。

○梅津善之委員長 金田文明生涯スポーツ課長。

○金田文明生涯スポーツ課長 プラザでは合宿しません。タスでとお聞きしております。

○梅津善之委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 わかりました。

それでは、オリンピック・パラリンピックホストタウン事業の予算の中に旅費として1,162万2,000円が計上されておりましたが、合宿費用等を含んでいるのか、また、何人分の旅費を計上しているのかを総合政策課長にお聞きいたします。

○梅津善之委員長 竹田利弘総合政策課長。

○竹田利弘総合政策課長 お答えいたします。

まず、普通旅費の1,162万2,000円の内訳について申し上げますと、このうちホストタウンであるタンザニア連合共和国とリヒテンシュタイン公国の選手やコーチ、あと政府関係者などに係る金額は863万8,000円を計上しております。それ以外の金額は、内閣官房のオリパラ事務局に派遣している職員や総合政策の職員、あと関

係者のいわゆる旅費になっております。また、この863万8,000円には事前合宿等に係る旅費及びタンザニア選手団の長井マラソン参加のための旅費も含んでございます。

ご質問の合宿費用を含んでいるのか、また、何人分の旅費を計上しているのかについてでございますが、旅費でございますので、いわゆる飛行機の運賃と、あと宿泊費、タスのところを今想定しておりますが、その宿泊費がこの中に含まれてございます。人数につきましては、概算で20人分を計上してございます。

なお、先ほど生涯スポーツ課長からもありましたが、4月中にタンザニア連合共和国、あともう一方のリヒテンシュタイン公国の事前合宿がそれぞれ予定されてございます。そのうちタンザニアでございますが、4月2日から12日までの11日間の日程で、タンザニアオリンピック委員会から陸上選手と柔道選手の事前合宿について打診がございまして、オリンピック委員会のグラム会長、今回、長井に初めて来るわけですけれども、初め総勢11人、内訳が、陸上の選手が3人、柔道の選手が3人、タンザニアオリンピック委員会の関係者、会長を初め3人、陸上コーチ1人、柔道コーチ1名が長井市において、生涯学習プラザの陸上競技場や、あと武道館では長井市の柔道会と連携して練習を行う予定でございます。

また、リヒテンシュタインにつきましては、アーティスティックスイミングのデュエットチームがオリンピックに出れるかどうかというちょっと瀬戸際でございますが、これもリヒテンシュタインのオリンピック委員会から打診があり、コーチ1人と女性の選手2人でございますが、来日予定です。東京都の有明にある東京アクアティクスセンターで4月の30日から5月3日に開催されるFINA（国際水泳連盟）アーティスティックスイミングオリンピック競技大会の最終の予選のトーナメント2020というのが

ございますが、それに出場し、オリンピックの出場権獲得を目指すため、日本に来て練習をしたいということでございました。ただ、アーティスティックスイミングにつきましては、長井市には練習できるプールがないものですから、今のところ、福島県郡山市の郡山しんきん開成山プールで練習を行います。4月の今のところ19日に長井市を訪問して交流事業を行うことで、今、協議を進めてございます。

なお、リヒテンシュタインのほうについては、会場の使用料とか旅費については、ほぼリヒテンシュタインのほうで負担するというところで今のところ話を、ただ、長井市のほうに郡山から来る費用とか、そういうのは長井市のほうで負担するというところで協議を進めてございます。

いずれも市民の皆様と交流していただく事業を計画しております。詳細が決まりましたら「広報ながい」や市のホームページでお知らせしたいと考えております。

○梅津善之委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 ありがとうございます。

4月といえばもうじきなんですけど、このコロナウイルス感染症が本当おさまらないとどうにもならないような気がします。ぜひ長井市に訪問していただいて、合宿なり、頑張りたいと思います。

それから、7月31日から8月2日にかけて、国際交流の歓迎イベントの予定があるとお聞きしていますが、今わかる段階で、どんなイベント内容なのか、総合政策課長にお聞きいたします。

○梅津善之委員長 竹田利弘総合政策課長。

○竹田利弘総合政策課長 お答えいたします。

長井の地から2020東京オリンピック・パラリンピックを盛り上げるとともに、このイベントを通じまして、ホストタウン相手国及び姉妹都市等と相互理解を深め、市民及び特に青少年の皆様との交流を図ることを目的に、国際交流イベ

ントを委員からご案内のとおり7月31日から8月2日の日程で開催することを計画してございます。

このイベントには、ホストタウンのタンザニアの皆様、リヒテンシュタイン公国の皆様でオリンピックに出場する選手やコーチ、役員のほか、海外の姉妹都市でありますドイツのバートゼッキンゲン市及びバートゼッキンゲン市の姉妹都市でありますオーストリアのプルカースドルフ市、スイスのグラールスノルド市、フランスのサナリーシュルメール市、イタリアのサンテラモインコーレ市や中国の友好都市、双鴨山市の皆様をお迎えするため、招待状をお送りしてございます。このイベントでは、特に市内の小中学校の児童生徒の皆さんにかかわっていただき、長井の次世代を担う青少年の方々に国際感覚を磨いていただくとともに、本市の魅力を発信していただきたいと考えてございます。

詳細につきましては、市内の各分野の60人ほどの皆様にお集まりいただいております長井市ホストタウン事業国際交流イベント実行委員会でご意見をいただきながら検討してまいりたいと思っております。現時点での大まかな内容をご説明させていただきます。

7月31日には、市民文化会館やタスを会場に歓迎レセプション、あと参加いただいております都市の皆様からのいわゆるお国自慢のようなもの、あと、市民文化会館のオープニングのイベントの一環として、山形交響楽団と長井市大町出身で現在ウィーン在住のソプラノ歌手、梅津碧さんのコンサート、あと長井の市民の有志の方で結成するリヒテンシュタイン合唱団の演奏会や、あと、夜には市民の皆様や長井在住のいわゆる海外の出身者の方にも気軽に参加いただけるような盆踊り大会などを行いたいと検討してございます。なお、今回、山形交響楽団の指揮団でございますが、総監督を務める飯森範親さんが行ってくれるということで、今、調整

中でございます。

あと、次の日の8月1日の土曜日でございますが、市内のアクティビティーの日として、長井ダムの水陸両用バスの遊覧やフラワー長井線のビール列車、長井の黒べこを堪能していただくお昼ご飯とか、あと、ながい水まつりの日ですので、その視察、あと夜の最上川花火大会の鑑賞などとともに、あと夜は、ぜひ長井の町に花火大会が終わった後、繰り出していただきたいというふうに考えてございます。

あと、最終日の8月2日の日曜日は、文化交流の日ということで、文教の杜周辺で日本文化の体験を中心に事業を計画してございます。長井の南中や北中の生徒が大田区で行っているあやめんごやだがしや楽校のように地場産品を紹介、販売するブースを商店街の皆様などとともに設けながら、日本の縁日の様子を体験していただきたいと考えてございます。また、黒獅子舞の披露や日本文化である茶道、華道、書道などの体験、美術館めぐりなどの文化交流なども行いたいと、今、検討しているところでございます。

○梅津善之委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 ありがとうございます。

本当盛りだくさんで、ちょっとできるか心配ですが、予算的には大丈夫なんでしょうか。総合政策課長にお聞きします。

○梅津善之委員長 竹田利弘総合政策課長。

○竹田利弘総合政策課長 予算につきましては、心のまちづくり基金のほうから申請をするということで、今、委員の方ともちょっと相談しているところでございます。

○梅津善之委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 本当、オリンピック・パラリンピックの最終年でありますので、ぜひこの締めくくりとしてしっかりやっていかなくてはならないと思います。子供たちの交

流ももちろんですけども、市民の皆さんも一緒に参加できるイベントになればいいなと思っております。限られた予算ではあると思いますが、知恵を絞ってイベントをしなくてはいけないと思いますけども、市長のお考えを最後にお聞きしたいと思います。

○梅津善之委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 鈴木委員おっしゃるように、やっぱり一部の市民の方だけじゃなくて、ぜひ交流会含めてこの3日間で外国の方々と交流したいという方、全ての方が参加できるようなイベントにしたいというふうに考えております。

昨年の12月に準備会を立ち上げて、実は3月の初めぐらいから、それぞれの分科会とか、具体的に活動してもらおうと、準備してもらおうと思ってたんですが、今回の新型肺炎、コロナウイルスの関係で、これちょっとおくらせているなというふうに思って、また、先ほど来、総合政策課長のほうからありましたように、4月、5月にタンザニアあるいはリヒテンシュタインのほうから選手を送りたいということで随分前に連絡いただいているんですが、これらも正直なところ、準備はきちんとしなきゃいけないんですが、ちょっと不安なところがあります。ただ、私どもは、やっぱりまだ国の、日本のオリンピック委員会、7月24日に向けてちゃんと準備を進めていこうということでございますので、私どもも準備をしていかなきゃいけないと思っております。その場合に課題になるのが、集まりがなかなかしにくいので、果たしてこのままた間に合うのかなという不安がありますし、あと、海外のほうとも多分不安で検討されているんじゃないかなというふうに、ちょっとそこがひっかかるところであります。

ただ、私どもとしては、まず近いうちにはつきり多分このままやるのか、あるいは、中止という選択肢はないような雰囲気になっておりますので、場合によっては延期というふうになる

かもしれませんが、その際には、市民の各層といろいろ交流するには、私ども、ただ歓迎じゃなくて、いらした方々からもそれぞれの国の文化、歌とか芸能とか、芸能って言わないですね。そういうものをぜひご披露いただいて、私どもも子供たちのみならず、できればやっぱり6つのコミュニティセンターの方々にもお手伝いいただきながら、役割をきちっとお願いして、そして市全体でこの3日間、交流し、それが私どもの東京オリパラの、子供たちだけじゃなくて、市民へのレガシーとなるような、そんな国際交流のまずは本格的なスタートにしたいなと考えているところでございます。

○梅津善之委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 ぜひ多くの市民を巻き込んで事業を進めていってほしいと思います。今、世の中の情勢がわからない限り、前へ進めない状態ですけども、市全体が疲弊しないように、何とか私たちも力を入れて、できることからみんなでやっていけたらいいと思います。

これで質問を終わります。ありがとうございました。

○梅津善之委員長 ここで暫時休憩いたします。再開は午後3時20分といたします。

午後 2時56分 休憩

午後 3時20分 再開

○梅津善之委員長 休憩前に復し会議を再開いたします。

予算総括質疑を続行いたします。

### 浅野敏明委員の総括質疑

○梅津善之委員長 順位1番、議席番号7番、浅野敏明委員。

○7番 浅野敏明委員 お疲れのところでございますが、本日の多分最後になるかと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思っております。

1番目の質問は、オンライン利用の促進についてご質問をいたします。

令和2年度歳出予算、2款1項6目、008地方創生推進事業では、令和2年度からの第2期総合戦略の策定とデジタル専門人材派遣事業について計上されていますので、関連としてオンライン利用促進についてご質問をいたします。

国は、「経済財政運営と改革の基本方針2019～「令和」新時代：「Society 5.0」への挑戦～」として令和元年6月に閣議決定されました。その中で、人口減少や少子高齢化が進行する中であっても、直面するさまざまな問題を克服し、さらにはピンチをチャンスに変えていく、その大きなパラダイムシフト、今までの考え方や価値観が180度変わることを指します。の鍵となるのがデジタル化を原動力としたソサエティー5.0の実現であるとしています。ソサエティー5.0で実現する社会は、IoT、あらゆるものがインターネットにつながり、データを送受信して情報を受け取ったり、遠隔地から機器を操作したり、いろいろなサービスを受けたりすることができる社会をいいます。で全ての人と物がつながり、さまざまな知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、これらの課題や困難を克服します。また、AI、人工知能により、必要な情報が必要なときに提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服されると思っています。

令和2年度の施政方針においては、国の政策でもあるソサエティー5.0の実現を目指し、人口減少に対応できる社会づくりとして、ソサエ